

福井城下の視的考察(1) 『福井城旧景』について

伊豆蔵 庫 喜*

Sight of the Fukui castle town (1) “The Castle of Fukui in the Old days”

Kouki IZUKURA

The City of Fukui was formed and had grown based on the castle town of the Edo era. But the streets and the houses disappeared because of war damages and earthquake disasters in the Showa period. In this research we consider the sight of the Castle of Fukui and its vicinity at the end of the shogunate while we regard “The Castle of Fukui in the old days” as the basic material. This manuscript is the first report, and the twenty-five pictures carried by that book (“The Castle of Fukui in the old days”) are shown. And the location and the direction in each picture compared with “The picture of its neighborhood” are considered.

1. はじめに

現在の福井市は江戸時代の城下町を基盤とし成立しているが、昭和期の相次ぐ戦災・震災によって藩政時代の町並みは姿を消し、城下の面影を今に留めているのは現在の県庁舎や県警本部が建っている本丸やその内堀、石垣のみである。福井城下に関しては絵図や文献史料などによって報告されている(注1)が、視覚的・ビジュアル的な考察は未だ十分とはいえない。

本研究は、幕末頃の城下の情景を描いた『福井城旧景』を基本資料にしながら、当時の福井城やその城下の景観について検討するものである。

本稿はその第1報として、まず『福井城旧景』(注2)に掲載されている25図を紹介し、文化3年(1806)の『福井御城下之絵図』(注3)と比較しながら各図の位置や方向、その信ぴょう性について考察した。

2. 福井城下の沿革

福井の町は、天正3年(1575)に柴田勝家によって築かれたのが始まりである。勝家は本丸を足羽川北側、現在の柴田神社あたりに置き、城下町を建設したと伝わっている。また足羽川に架かる大橋(現、九十九橋)を半石半木に造り替えたのも勝家と言われている(注4)。しかし、わずか8年後の天正11年(1583)に羽柴秀吉に攻められ、勝家は天守にて自害して果てた。

*建設工学科 建築学専攻

その後、慶長5年(1600)の関ヶ原の合戦に勝利した徳川家康は、北隣の加賀藩 120余万石の前田家に対する戦略拠点として、この地を重視し、越前13郡68万石の領主として次男の結城秀康をこの地に配置した。秀康は翌6年9月、本丸の位置を現在の県庁の地に移し、勝家が築いた北ノ庄城を大改修し、約6年間の歳月をかけて新たに北ノ庄城(福井城)を完成させた。城下も勝家時代の町を拡張、整備したと言われている。

こうして造られた城下町は、寛文9年(1669)に大火に遭ったが、その後は大きな変化もないまま明治まで存続していた。

しかし昭和2年(1927)の「都市計画法」や昭和7年(1932)10月の「福井都市計画街路法」が認可され、堀も埋立てられたりして徐々に城下町の面影が消えていった(注5)。そして昭和20年の戦災・同23年の大震災で壊滅し、それ以降新たな都市づくりが行われて近代都市として生まれ変わったのである。

3. 城下町の構成

秀康によって造られた福井の町は足羽川をはさんで大きく橋北・橋南の二つの地域に分けられる。藩主の住居であり、政庁でもある城は橋北地域にあった。本丸(現在の県庁舎が建つ場所)を中心にして、同心円状に堀が五重に巡る五重環郭式縄張をもつ大きな城郭で、その大きさは、現在の大手1～3丁目がほぼすっぽりおさまる範囲であり、その長さは約19町9間(2087m)ほどであった。

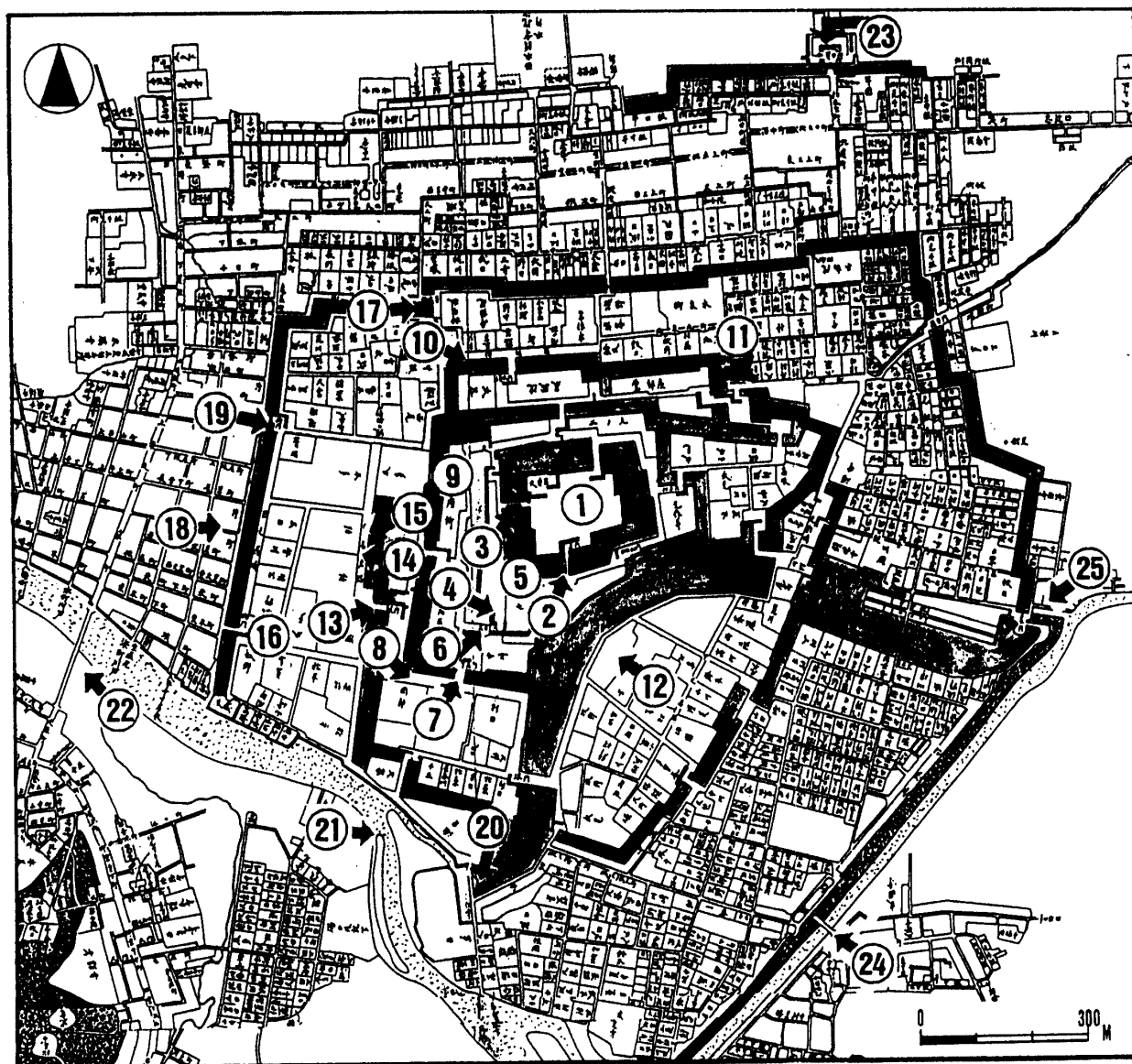
武家屋敷はこの城の周辺に置かれ、武士のなかでも身分が高い者ほど城の近くに邸宅を構えていた。特に城の西側を南北に走る「大名広路」(現在のフェニックス通り)に面して重臣屋敷が置かれ、城の北から東側には中級・下級の家中屋敷が配されていた。この武家屋敷地と町屋敷地の境には外堀が設けられていた。現在にあてはめると、北は松本通りと桜通りのほぼ中間にあたり・西は片町通り・東は県立図書館から荒川に沿う辺りである。

町屋敷は、現在の片町より西側の呉服町にかけて集中していた。また北陸街道が大橋(現在の九十九橋)を越えて呉服町から松本通りを通り抜けており、街道沿いにL字型に町屋敷が配されていた。また、この街道の西側(現在の文化会館付近)にも町屋敷が置かれていた。

そして、特に西から北に掛けては寺院が置かれ、城下の北口に当たる加賀口御門付近には組屋敷が多く配されていた。

一方の橋南地域は町家が北陸道沿いに帯状に連なっており、武家屋敷は点在するだけである。当時の橋南地域は橋北ほどの賑わいは無かったものと判断できる。また九十九橋南詰めから足羽山麓にかけて寺院が集中して配されていた。

城下の規模は、南端の木田赤坂の惣木戸(現在の日赤付近)から、北端は松本荒町の加賀口御門(現在の進明中学校付近)までの1里15町(5～6km)であり、人口は秀康時代は約4万人を越え、当時は全国屈指の大都市の一つに数えられていた。



〈図-1〉『福井城旧景』の25図の描かれた位置を示した図
(松原信之氏が作成した『福井御城下之絵図』を参考になっている。)

- | | | |
|-----------------|---------------------|-----------------|
| 1. 「御本丸」 | 2. 「御本城橋」 | 3. 「御武具蔵より天守台跡」 |
| 4. 「七ツ蔵前より御廓望見」 | 5. 「太鼓御門内」 | 6. 「下馬御門内太鼓御門」 |
| 7. 「下馬御門前」 | 8. 「下馬御門前南側」 | 9. 「御座所御玄関」 |
| 10. 「神明前」 | 11. 「三ノ丸前面」 | 12. 「鳩ノ御門」 |
| 13. 「鐵御門」 | 14. 「鐵御門前」 | 15. 「狛木工邸」 |
| 16. 「櫻御門内」 | 17. 「御使番町より神明の森」 | 18. 「片町より東望」 |
| 19. 「柳御門前より御隅櫓」 | 20. 「葦田信濃邸」 | 21. 「新橋邊より東望」 |
| 22. 「九十九橋」 | 23. 「加賀口御門」 | 24. 「勝見御門」 |
| 25. 「中島二つ門」 | (なお名称は、図の内題に従っている。) | |

4. 『福井城旧景』について

(1) 作者

『福井城旧景』は現在福井県立図書館に所蔵されており、藩政時代の福井城の城郭とその周辺の情景を描いた折本構成の絵画資料である。序文（昭和2年）によると、原図は旧福井藩士大越銀次郎家に所蔵されていたものを、大正7年頃に藩主であった松平家に寄進する折、史料の収集および保存のため郷土史家の山下与平が原画を忠実に模写したものである（注6）。

(2) 年代

年代は明記されていないが、各図にみられる内題や武家屋敷の名称を文化3年の『福井御城下之絵図』に対照させてみると一致する点が多く、絵図の景観は幕末頃の福井城やその城下を示していると判断できる。

(3) 内容

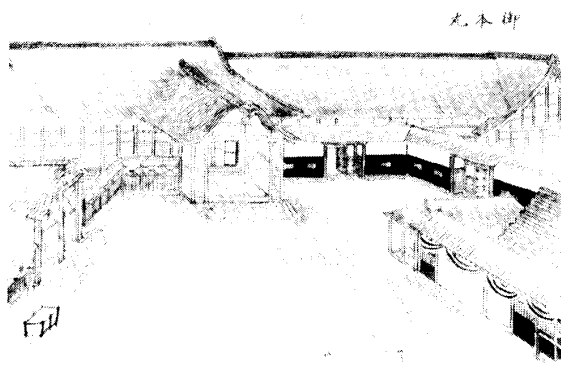
描かれている絵画は全部で25枚ある。各図の配置や番号は便宜上、筆者が付したものであり、図の名称は内題をそのまま使用している。図を大きく区分すると、城郭に関するもの・城内に関するもの・城下に関するものの3つに分けることができる。

まず城郭に関するものは、1～13図までの13枚である。1～3図は本丸御殿や二の丸より本丸内を眺望したものである。また4・5図からは二の丸内部の様子が伺える。この他、10～13図は城郭の外側より三の丸を望んだものである。

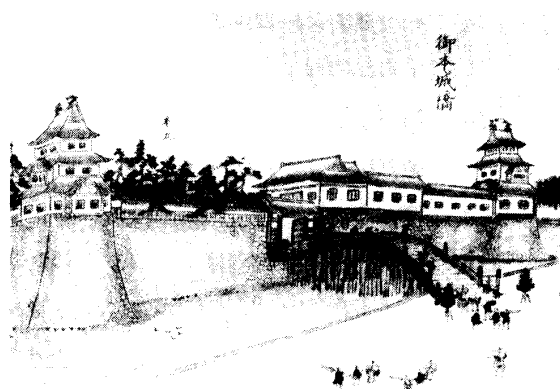
次に城内に関するものは、14～21図までの8枚である。14～16図は城内に広がる武家屋敷中心に描いているものや、17～19図のように城下町側より城内をみたものもある。この他、20・21図は足羽川沿いに点在する別邸を描いたものも含めた。

最後に城下に関するものは、22～25図までの4枚である。22図の九十九橋や23図の加賀口御門は城下における交通・防衛の拠点を描いており、特に九十九橋は左右に門を構え、半石半木の橋の様子までも伺える。

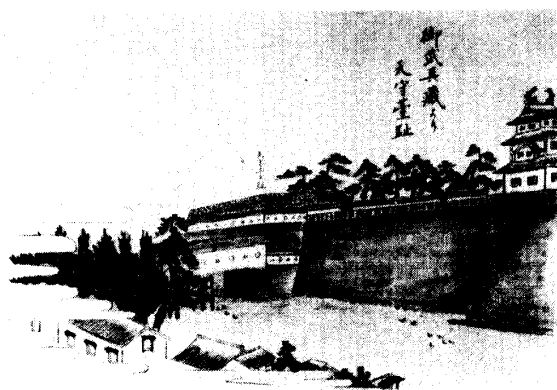
いずれの絵画も詳細な色彩が施され、遠近感のある写生面で当時の迫力ある実景を再現している。



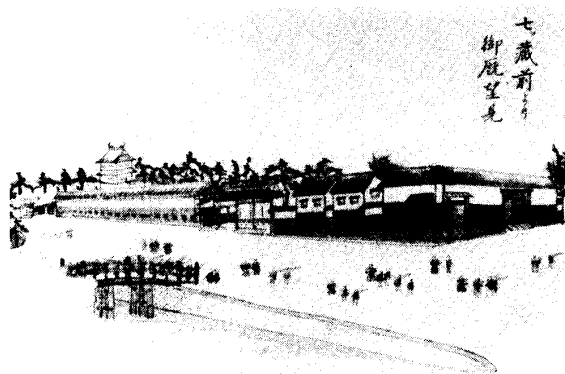
1. 「御本丸」



2. 「御本城橋」



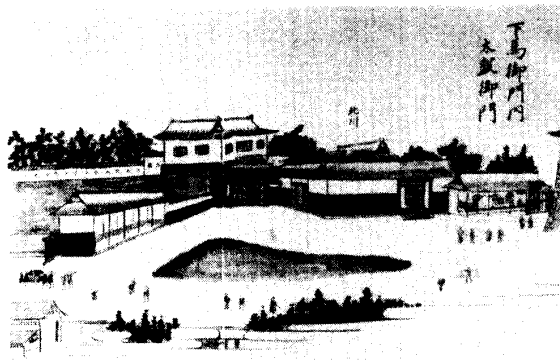
3. 「御武具蔵より天守台跡」



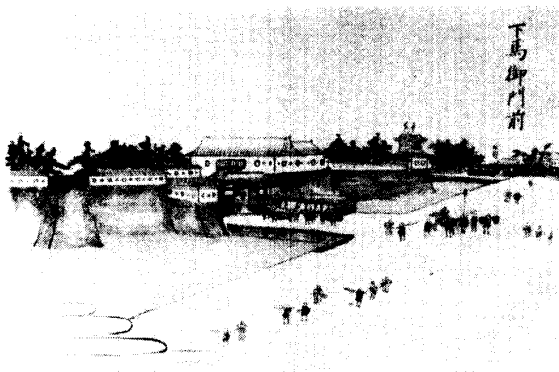
4. 「七ツ蔵前より御廓望見」



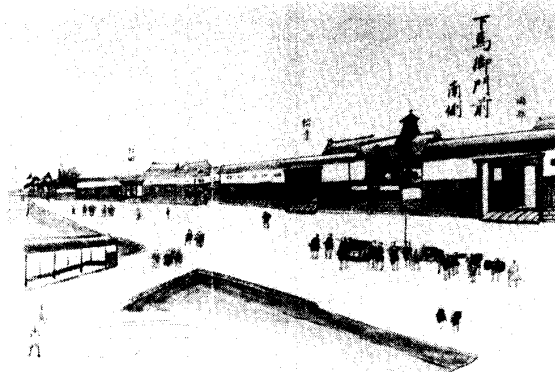
5. 「太鼓御門内」



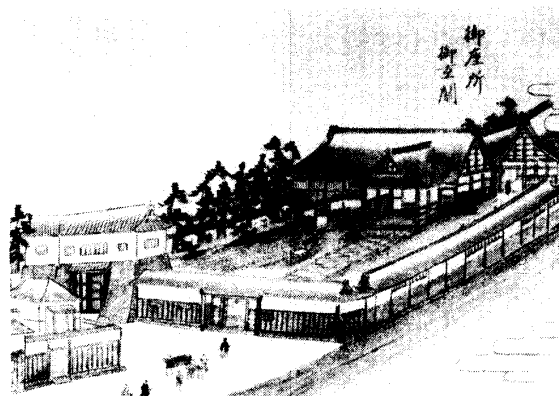
6. 「下馬御門内太鼓門」



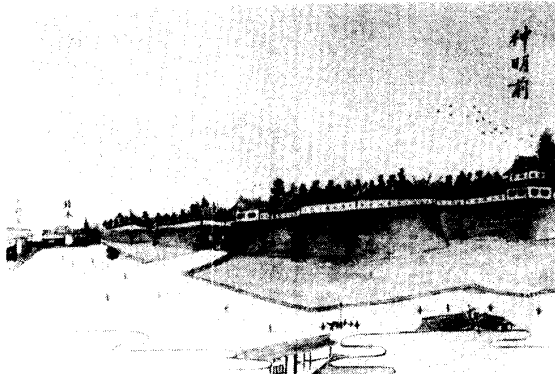
7. 「下馬御門前」



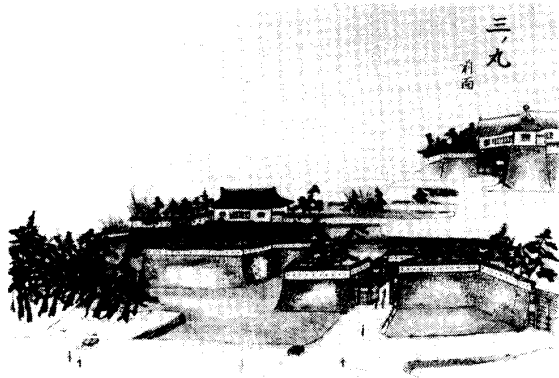
8. 「下馬御門前南側」



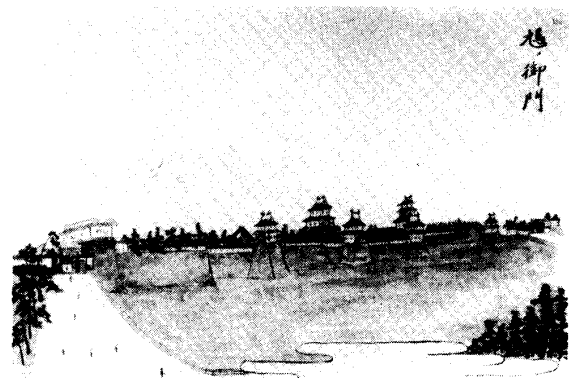
9. 「御座所御玄関」



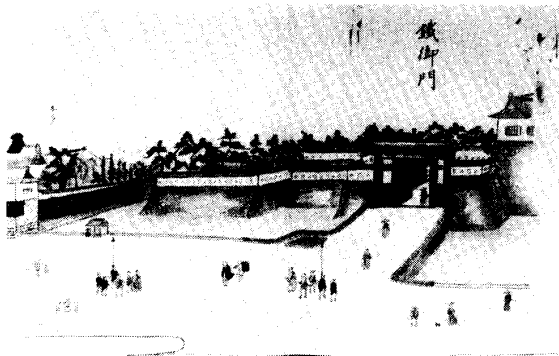
10. 「神明前」



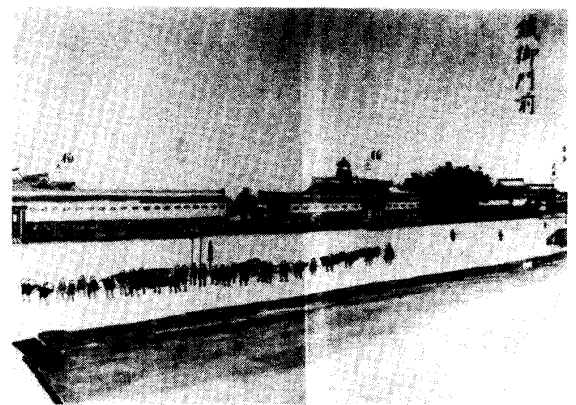
11. 「三の丸前面」



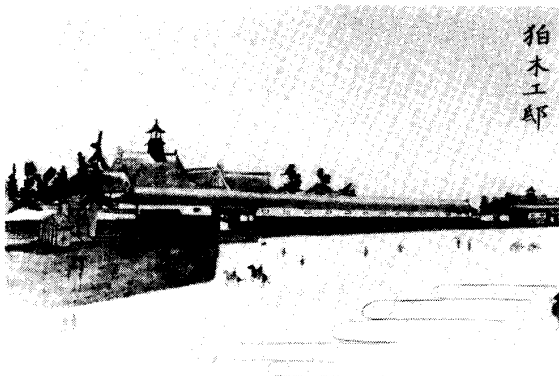
12. 「鳩ノ御門」



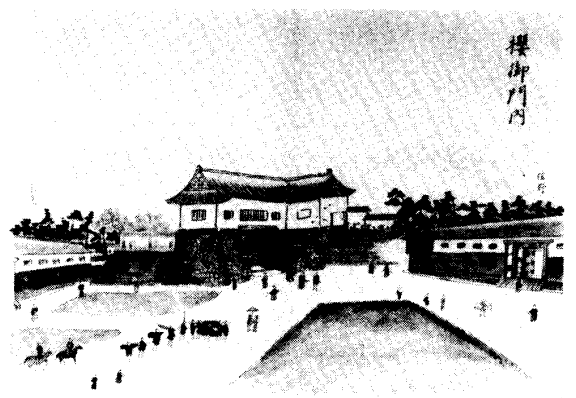
13. 「鐵御門」



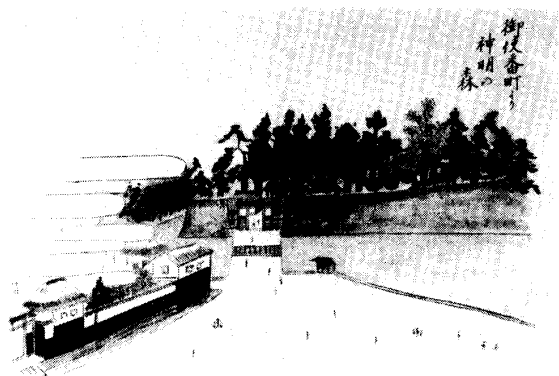
14. 「鐵御門前」



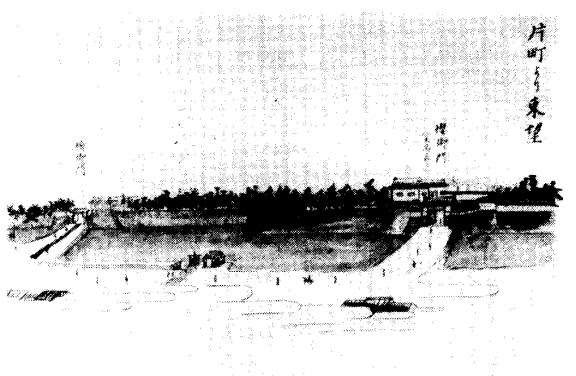
15. 「狛木工邸」



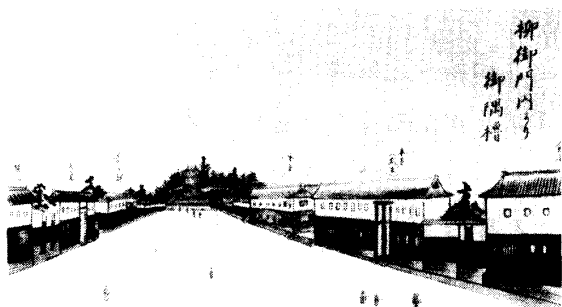
16. 「櫻御門内」



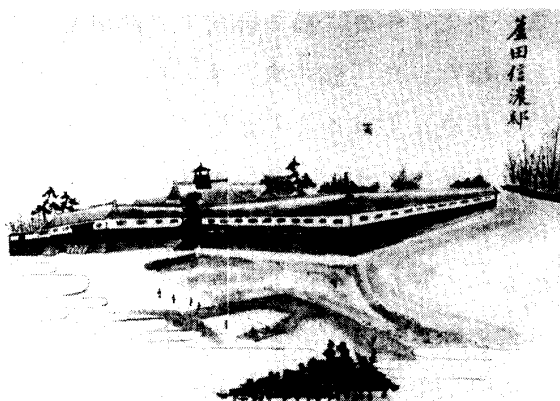
17. 「御使番町より神明の森」



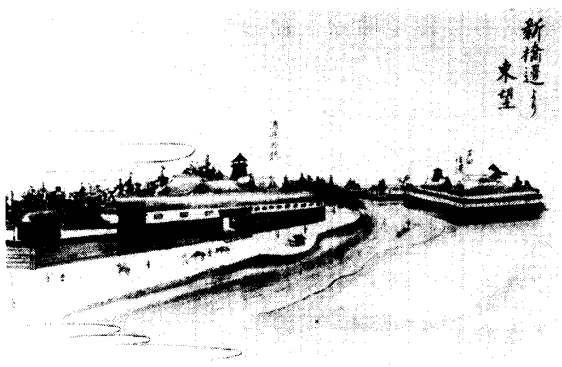
18. 「片町より東望」



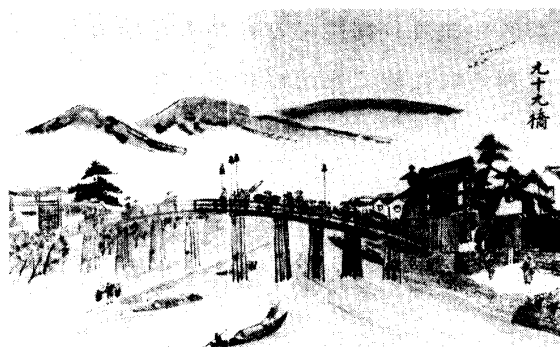
19. 「柳御門前より御隔櫓」



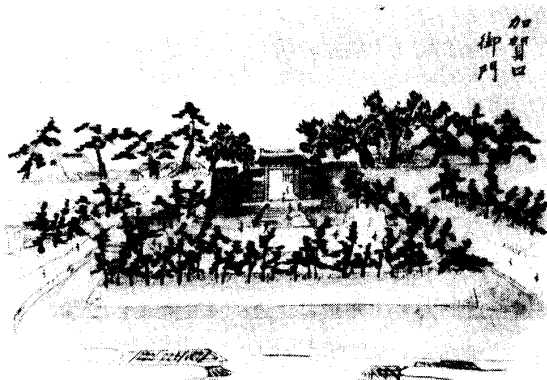
20. 「葦田信濃邸」



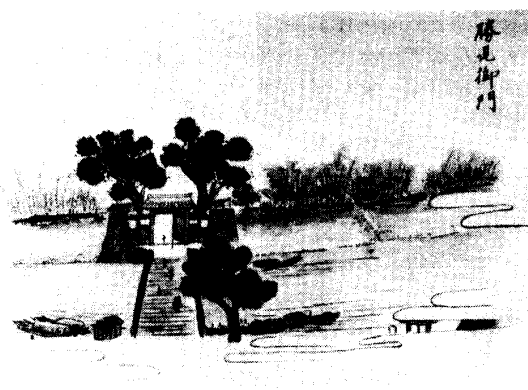
21. 「新橋邊より東望」



22. 「九十九橋」



23. 「加賀口御門」



24. 「勝見御門」



25. 「中島二つ門」

5. 文化3年の『福井御城下之絵図』との比較

以上、紹介した『福井城旧景』を、文化3年の『福井御城下之絵図』(以下絵図と呼ぶ。図-1参照)と比較してみると一致している点が多い。例えば、第1図は本丸御殿を描いており、絵図でも本丸を確認できる。第3図は、天守台跡が描かれている。天守は寛文9年(1669)に焼失し、それ以降は再建されていない。したがって文化3年の絵図も天守台とあるだけで、この時代には天守はないことが絵図からも伺える。

第8図にみられる下馬御門前の岡部邸・稲葉邸・杉田邸の各武家屋敷は、絵図の上でも下馬御門前に並行しており、屋敷の位置も一致している。第14図にみられる鐵御門前の2つの狛邸や本多邸も、同様に鐵御門前の大名広路沿いに並んで配されているのを確認できる。

第23図の加賀口御門にみられる正面の土居の様子や左右に続く堀は、絵図でも北側の土居の位置や東西方向に続く堀の形状も一致している。

6. おわりに

以上のように、『福井城旧景』の全25図を紹介し、文化3年の『福井御城下之絵図』と比べたところ、ほとんどが位置・方向とも一致しており、これらはほぼ幕末頃の福井城や城下の情景を描いたものと考えることができる。今後は、これを基本資料として、福井城や城下の情景や建築・町並みについて視覚的な考察を進めていきたい。

注

1) 主な参考文献は次に示した。

舟沢茂樹『福井城下ものがたり』福井PRセンター(1977.4)・吉田純一『福井の城』フェリックス出版(1994.2)

『福井市史 資料編別巻 絵図・地図』福井市(1989.3)・『日本城郭大系11 京都・滋賀・福井』新人物往来社(1980.9)・『城郭と城下町 第4巻 北陸・北信越』小学館(1988.1)

2) 福井県立図書館所蔵

3) 松原信之作成・原本は松平宗紀氏所蔵『松平文庫』福井県立図書館保管

4) 舟沢茂樹『福井城下と九十九橋』北陸都市史学会報 No 8(1986.8)

5) 註1に示した『福井市史 資料編別巻 絵図・地図』参照

6) 冒頭に次のようにある。

「跋

予幼少の頃より叔父にして越前人物志の著書である菱洲福田源三郎大人の郷土史料の研究及蒐集に没頭尽瘁せらるるを見て一つの好奇心を起したのである。

夫は大人のこの事業に熱心なるは郷土史の振起によりて一つの威(偉)大なる効果を生み出すからであらふと思ふ。古へより郷土史の刺激によりて偉大なる人物を出せしことがあり。又郷土史完成によりて一国一家を思ふの大本を確立する(するの間違か)の原因ともなる。

予大人のこの事業に私淑すること多年、ことに福井中学校に学ぶの時代より郷土史料の蒐集及研究に興味を覚ゆるに至ったのである。

この福井城旧景も福井藩士大越銀次郎翁の所持なりしが大正七年の正月頃藩主松平家に寄附せらるること聞きし折、希ひ得て浄写せしもので、もとより絵筆に親みしことがないから筆の拙なきことは勿論なれども原面と些の相違のなきことは保持したつもりである。観らるるの諸士幸ひ諒せられたい。

次に此帖の巻頭に福井市長永井環、工学博士仙石亮両先生の題辞序文を寄せられしことで禿筆の面帖に光彩を放つに至ったのを深く感謝して止まないのであるか。聊かその由来を記してこれが跋となすと願ふ。

昭和二年七月中元

福井市佐佳枝宮の旧跡にて
春溪 山下 与平 記

〔付記〕この小論を作成するに際しては、吉田純一氏(福井工業大学)のご指導を受けた。また米沢千恵さん(当時福井工大4年、吉田研究室)に資料整理の協力を得た。末尾ながら感謝申し上げる。

(平成6年12月14日受理)